

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して。。。)

記入年月日	平成21年 2月 7日
事業所名	グループホーム優楽家 ユニット1
事業所番号	2371301181
記入者名	職名 管理者 氏名 小林孝彰
連絡先電話番号	052-739-3501

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の一員として、地域の中で暮らすことができるような支援を念頭においてホームの方針を立てている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議、ケースカンファレンス、社内勉強会を通してスタッフ間で話し合いながら理念の共有、再認識をし日常の介護に反映させている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの理念、考え方を屋内に言葉で掲示したり、雰囲気や飾り付け等で表現し、来所された家族、近隣の方に伝え、また近隣の喫茶店、美容院等を利用者とともに利用してホームを理解して頂けるように努めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や近隣へ出かけた際には、近所の方々に挨拶を交わしている。また回覧板等を通して町内の方へ訪問させてもらい、近所付き合いをさせて頂いている。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に在住しているスタッフを通じ、地域の人が気軽にボランティア活動ができるように、開かれた雰囲気作りをして積極的に受け入れできるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの近隣に在住していた利用者さんを通じ、利用者さんが以前から、お付き合いのある近隣の方々の集会に今でも、参加してもらいホームを理解していただくとともに、地域に貢献できるように努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義についてスタッフ全員に伝え、スタッフ個々の意見が反映されるように努めている。それぞれの取り上げられた課題、意見等は全員で話し合いながら改善に向けて取り組んでいくことを常に考えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現時点では、未開催であるが平成20年1月に最初の会議を開催予定です。今後は会議を通して意見交換を行いサービス提供に活かしていきたいと考えています。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度やその他の制度等について疑問や困ったことがあれば、その都度行政に連絡を取り解消したり改善できるように取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方もみえる。担当者は今後、他にも制度が必要になる方もあると思うのでどの利用者や家族に説明できるよう研修会に参加したり資料を集め勉強に励んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や勉強会を通して、高齢者の虐待に対する資料を配布し、意見交換するなどして理解を深めている。自己において日頃の態度を見直して頂き、虐待の防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、事前に重要事項説明書に沿って利用者又は家族の方にホームの利用するうえでの説明を行い理解、納得のもとサインと捺印をお願いし、契約書も同様にサイン、捺印をしたものを双方一部ずつ保管するようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの希望や意見は日常のなかでスタッフが聞き取るように努めており、それを記録に残し毎朝のミーティング等で周知し、あらためて日々の運営の中に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等へは月一回、ホーム作成の新聞を配布し日々の様子を伝え、金銭管理については小遣い帳に記入したものを利用料の請求とともに送付している。健康管理は変調が見られた際には随時、電話で報告するよう努めている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情については常に耳を傾けるように管理者をはじめ現場リーダーが窓口になり受け付けており、緊急性のある事項は日々の朝礼で報告し対応するように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体ミーティング、カンファレンス等でスタッフの意見を聞くようにしているが、その他に個別面接や勤務外での食事等で対応するように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニット毎にスタッフを規程に沿って配置するとともに、それ以外に管理者、ケアマネージャー、看護師を配置し、人材の必要性に対応できるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの配置、採用については、常に余裕があるように努めているが、退職者に対応して出来る限り次の就職者と勤務が重複するように努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で勉強会等を勤務時間内に開催し、スタッフ個々の能力のレベルアップを図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会に加盟している。協議会の開催する研修会等に参加するように努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者はスタッフの悩みや不満に対して、勤務時間内、又は時間外に対応する場を設け、それらに対し解消し、尚且つ信頼関係を築くように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者、管理者はスタッフが常にやりがい、生きがいを持って勤務に就き、利用者さんに対して支援できる体制に整えるように日々、声掛けし、励ましや感謝の気持ちを伝えるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談の際には、来訪したり、来所して頂き見学や面談を重ね、不安の解消や本人の要望を聴くよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談の際には、来訪したり、来所して頂き見学や面談を重ね、不安の解消や本人の要望を聴くよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時には、面談を重ね本人と家族の望む必要なサービスは何かを見極め、事業所のサービス内容を提示し相互理解に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がどんな生活を望んでいるか、本人、家族と密に話し合っている。それをふまえた上で、本人が馴染める環境作りに努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人格ある一人の人として尊重し利用者主体の生活が営めるよう側面から見守り、支えながら本人の気持ちを分かち合うよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでは随時、家族へ利用者の様子を伝えている。また、家族の相談も随時受け付け、信頼関係を築くよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前からの本人と家族の関係が引き続き継続できるよう、可能な限り相談、援助を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで親しんだ場所や人間関係の把握に努め、可能な限り関係が継続できるよう援助している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は常に利用者の状況、人間関係を把握しトラブルにも即座に対処し、利用者さん同士が良好な関係を築けるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所では、サービスが終了しても相談を受ける等、その後の交流を保っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志を尊重した生活スタイルを維持できるよう努めている。適切に言葉で意思表示できない方については、日常生活を通して本人の望みの把握に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴についてアセスメントし、スタッフ間で情報を共有できるようにしている。また、適宜、家族や親戚、知人等から得た情報は記録に残したりカンファレンスで発表している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	今までの生活スタイル、生活習慣を重視し、本人の持っている能力や機能を充分生かして生活できるよう支援している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日頃の生活ぶりや会話、行動からどんなことを本人が望んでいるか把握し本人、家族、スタッフと随時話し合いながら、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なケースカンファレンスを行い、現状の把握と今後の目標を話し合っている。それを介護計画の見直しに反映させている。また、状況に応じて話し合いし、特別な変化があれば見直しをしている。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人のケース記録にケアの実践を残し、介護計画に反映している。一日の全体の様子は申し送りノートで情報が浸透するようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による緊急時の対応や入居前の体験入所（可能な場合）等を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れは積極的に行い地域の社会資源を活用しながら地域に密着した支援に努めている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の相談や訪問マッサージ、その他のサービスが必要な時は近隣の事業所や他のケアマネジャーに随時相談し、適切なサービスの提供に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員が参加することになっている。会議を通して連携の取れる関係を築いていきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に可能な限り対応できるよう、ホームでの生活状況を情報提供し、新しい環境でのダメージが最小限になるよう配慮している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないよう、話し方、接し方には日頃から注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフの主観でなく利用者が自ら選択し決定できるよう支援している。利用者の希望に沿って自己決定に至るまでの援助を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペースについて、その人の体調等に配慮しながら、できる限り個別性のある支援を行うと共に、職場には日常的に決まりや都合を優先させた支援にならないように指導している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容、美容を招き利用者さんの身だしなみやおしゃれに関して取り組むとともに、より個人の希望をかなえる為に近隣の美容室に送迎して利用して頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配下膳について出来る限り利用者さんと共に進めるよう努めている。また、利用者さんとスタッフが同じテーブルで食事を取ることで		
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好を把握し、それに応じた物を提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し個別に対応して、出来る限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は可能な限り利用者さんの希望に合わせるように、一人ひとりの入浴時間を把握し、スタッフの勤務に反映させている。入浴を拒否する方については安心して入浴していただけるようにスタッフ間で連携して声掛け、誘導している。		
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者さん一人ひとりの生活リズムを把握し、夜間に睡眠できるように努めている。また、家族や医師と相談しながら必要とされる薬剤等の使用については安易に使用するのではなくその利用者さんの生活全体から安眠について考えるように努めている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ミーティング、カンファレンス等を通じて、一人ひとりの利用者さんがどのようなことが得意でどのようなことに興味があるのかを把握しながら、できることをお願いするように役割分担をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんの希望によっては、小額の現金を所持してもらい安心感を持ってもらっている。また、随時買物に出掛け、出来る方には自分の財布からお金を支払うようにして頂いている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、ドライブ等可能な限り希望に沿った外出支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに行事を企画して外出や外食を実施している。その都度、希望を伺うようにしている。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望に応じていつでもできるように支援している。居室に電話の設置はできないが、携帯電話を使用されている利用者さんがいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人の来訪は一応時間設定をさせてもらっているが、出来る限りいつでも、自由に会いに来て頂けるように案内をしている。本人とその来訪者の望む場所で過ごして頂いている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてスタッフ間で理解を深め、安全面にも配慮しながら、本人にとって最善の方法を考えて取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関及び玄関から各フロアへの出入り口の扉は施錠をしていない。常に利用者さんの行動を見守りで対応して安全確保に心掛けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中いつでも対応できるように利用者のそばで見守りを行っている。夜間時でも数時間おきに巡視をしており24時間利用者が安心して過ごす事ができるように支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品については、利用者側から見えないように管理をしているが、時には利用者の持っている能力を活かす為に用いるが常にスタッフがそばに居て、一緒に作業を行い目配り、気配りをしながら支援している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の予想される危険においては、常に情報を共有している。それを、未然に防げるようにスタッフ全員で取り組みを行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時や事故発生時に備え、看護師を講師にして救急処置を社内勉強会として実施している。また、夜間時間帯の緊急連絡体制を一覧表にして、速やかに対応できるように掲示している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を地域の消防署と連携し実施しました。ホームが地域のなかで孤立しないように、町内会に属し地域に密着するように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	家族には利用者の体調の変化や突発的な怪我等、 起こり得る危険に対して十分に説明を行い、 安全を守りながら圧迫感の無い生活を支援でき るよう努めている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	利用者の体温、血圧を一日、2回測定し、日々 の体調管理をし、また日々の言動に注意して観 察し気付いた時は原因やその背景にも目を向 け状況を適切に把握しそれに対応している。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている	主治医と看護師の連携のもと服薬管理がさ れており、変更があればその都度内容と目的 、副作用が伝えられ全職員へ周知徹底して いる。また、服薬時のチェックと事前の準 備段階での第三者のチェックを行っている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理 解し、予防と対応のための飲食物の工夫 や身体を動かす働きかけ等に取り組んで いる	便秘の予防については、看護師を中心 に社内勉強会を行い、食事面での工夫や 運動の為に散歩や毎朝のラジオ体操を 取り入れている。また、主治医に相談し 医療の面からも対応している。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じな いよう、毎食後、一人ひとりの口腔状 態や力に応じた支援をしている	食後には必ず声掛けし、口腔ケア を実施している。義歯の使用者にお いても就寝時には必ず洗浄す るように支援している。口腔ケア については協力医療機関の歯科 医の先生に相談し対応している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分 量が一日を通じて確保できる よう、一人ひとりの状態や力、 習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量、水分摂取 量等について個人別チェック表 を作成しそこに記入して日々 の状態を管理している。水分 摂取が少ない時には随時、 水分補給を促すなど配慮して いる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防の為に利用者、スタッフ全員がインフルエンザの予防接種を受けている。また、外出から帰ってきた時は手洗い、うがいに心掛けている。普段でもトイレ後、食事前には利用者、スタッフ全員、手洗いをする等衛生管理に心掛けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防の為に、水回りは常に清潔にしておき、布巾、まな板は毎日殺菌消毒し、食器類についても高熱殺菌を心掛けている。食材についても品質管理、日付管理を行い安全に食して頂ける様に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰でも気軽に立ち寄れるよう、家庭的な雰囲気を出すように玄関には花を植えたり、ホーム内では手作り作品や絵などを飾るとともに観葉植物も置き家族や地域の方など気軽にくつろげる様に心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自分の家に居るように家庭的な雰囲気を出し本人にとって馴染みの場所であると思えるよう、日常会話の中から出来る限り、居心地が良いと感じられるような環境になるように工夫している。また、季節感を採り入れる為、季節の飾り付けを利用者とともに行うことに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては気軽に明るく楽しく、くつろげるよう家具の配置に気を配り、定期的に模様替えをしたり皆が仲良く過ごせるよう気配りに努めている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と相談しながら本人の愛用していた家具類など、使い慣れたものや好みの物を取り入れ本人の居心地の良い空間作りに努めている。また、居室での危険な物はないかスタッフ全員で常に居室の整理、整頓に努めている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度管理を充分に行いどのくらいが適切なのか、個々の体調を考え、スタッフ間で常に話し合っている。午前、午後それぞれ居室の窓を開け、空気の入換えなど居室の換気を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住居の環境はバリアフリーを基調に手すり等を設置し日常的に利用する生活スペースに安全性を考えながら自立した生活を維持できるように配慮し常に改善を意識している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者さん個々の表現に合った言葉で表示してトイレへの案内をするなど不安や混乱を招かないように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	一階のウッドデッキや屋上にベンチやプランター等を置き利用者個々が好きなことができるスペースを確保し散歩、日光浴、園芸等が楽しめるように努めている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者主体の生活の場であることを主眼において、サービス提供をすることを常に考えている。出来る限り、自由で束縛のない環境作りをスタッフが行い、それを利用者が実感できるように勤めています。